



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 立石 誠 幹事 赤羽弘之 会報副委員長 大石ひとみ 第2861回例会 2019.4.4 No.1521



インスピレーションになるう

2018-19年度RIテーマ

BE THE INSPIRATION

ソング 君が代 奉仕の理想**四つのテスト** 唐木一平職業・社会奉仕委員長**会長談話**

元号が交付されて、「令和」となりました。万葉集を引用したということで、今までになく柔らかい感じが良いなと感じています。漢字の「令」は、喜ばしいこと、「和」は和むこと、和らぐことと訳されています。平成は、事故も多かったですが、物と物がぶつかっていたという印象。天皇皇后様も、大役をおり、歩いている姿は微笑ましく見える今日この頃です。「令和」という時代を楽しみたいと思います。

**宮下金俊創立60周年記念事業実行委員長**

60周年実行委員長を仰せつかりました。クラブ全体のお祝いなので、実行委員だけで動くわけではないので、ぜひご協力をお願いします。

山田 益 2020-21年度上伊那グループガバナー補佐

ガバナー補佐をお引き受けいたしました。ロータリーの楽しみとして、職業がみな違う方が集まっていますので、この会を情報交換の場として活用していただきたい。企業も、変わってきていて、本業+〇というようにアイデア、発想力豊かにやっていたらいいと思います。その先にロータリーがあればいいと思います。

誕生祝

橋爪利行・宮下裕・向山賢悟

結婚記念日祝

神山公秀・熊谷勝昌・清水紀光・

小河節郎・宮川眞一・吉澤祥文・本田敏和

在籍祝 神山公秀(38)・平澤泰斗(15)・波多江崇史(3)・小河節郎(2)・宮川眞一(1)**幹事報告** 別紙をご覧ください。**理事会報告**

歴代会長報告 橋爪利行会員より、創立60周年記念事業実行委員長に宮下金俊会員、2020-2021年度上伊那グループガバナー補佐候補者に山田益会員を選出し、承諾いただけたとの報告がされた。

委員会報告 4月号「友」の紹介 原 義美副会長

横組み P7~P15 自殺を防ぎ、命を未来へつなげる活動「命の重み、感じますか？」2018年の自殺者数は20,598人となり交通事故死者3,532人と比べて大変多く、先進国で最も悪い数字である。徳島南RCの取り組みを紹介。



P19~21 「会話を始めよう」バリー・ラシン RI 会長の環境への取り組みを語る。

P25~P27 「ロータリーを活用しよう」会員から集めた会費をどう活用しているのか？その活用方法を紹介。
縦組み P9~12 「クラブをたずねて」船橋西 RC 紹介
P18 「卓話の泉」高速道路のマメ知識と救急救命について

出席報告 会員数54名 内出席免除17名 長欠2名 出席者37名 事前メーキャップ1名 出席率78.70% 前々回100%変更無し。

ニコニコボックス

立石 誠・赤羽弘之 元号が発表となりました。

塚越 寛 毎日会社へは出ますが、一応役員を外れました。

都築 透 お陰様で二男が結婚しました。子供3人片付いてまずはホッとしています。

馬場智義 本日は卓話で20分もお話しさせていただきます。自分自身についてこんなに長く話すのは人生初です。どうぞ宜しくお願いします。

藤澤秀敬 ネパールのカレンダーを頂きました。

向山賢悟 父向山公人を宜しくお願いします。

在籍祝 小河節郎、波多江崇史、坂井清彦

ラッキー賞 宮下金俊、原 義美、原田和愛、竹腰哲夫、平出吉範、宮下光一、大石ひとみ



IGM 報告 会員増強について発表。発表者は

A 班 山崎秀亮会員 B 班 串原弘樹会員

C 班 波多江崇史会員 D 班 唐木 拓会員

会員卓話

馬場智義会員 演題「私の履歴書」

私は昭和42年生まれの伊那市狐島出身51歳です。私の実家は狐島の農家であり、祖父からいつも「お前は農家の長男だ」と幼心に刷り込まれて育ちました。幼少期の私はほとんどない与太小僧で、性格は「好奇心旺盛な天邪鬼」、みんなが右と言えば、左へ行きたくなる面倒な性格だったと思います。

小学校の途中からは、いつからか鉄道ファンになっていました。小学5年生のある時、山陰本線の寝台急行の種別が間違っていることに気が付き、それを出版社にハガキで知らせたところ、翌月号をタダで送って来てくれたことを鮮明に覚えています。

その後、高校が終わるまでは、極度にのめり込んだものはなく、勉強もスポーツも中途半端で、どちらかというと受け身でダラダラ過ごした感じでした。大学では非常に熱心かつ紳士的に勧誘を受けた体育会ボート部の誘い文句「大学から始めても日本一になれる」にまんまと騙されて入部してしまいました。バブルの時代に毎朝4:50起



床、夜9:00消灯、大学の仲間からは「修行僧」と呼ばれていました。ただし、日本一にはなれなかったため未練を残したまま卒業となりました。

卒業後は、Uターンとともに銀行に入行しました。入行翌日の早朝から学生時代と同じようなボート生活が始まりました。疲れて昼間も眠くなり、ウトウトしていたら当時の副支店長に「馬場君は昼間も舟を漕いでいるね」と言われてしまいました。ボートばかりやっていたので、2年も経たないうちに転勤となりました。ところが、転勤先の中野支店では、支店長が「まだボートやり足りないでしょ」と言ってくれ、引き続き選手生活を継続することになりました。当時、長野県チームは有力な選手が揃っていたこともあり、クラブチームでありながら全国の強豪実業団相手に互角に戦うことができたことが、苦しいけど快感でした。

鉄道、ボートと、のめり込むととことんはまる私ですが、社会人になってからはまったものの一つがデジタル関係です。デジタルライフはこれからも進化させていきたいと思いますが、休日の私のカバンには、通話用の携帯、それとは別にスマホ、タブレット、電子書籍専用端末とデジタルものに溢れ、腕を鍛えるにはもってこいの重さです。

仕事で深く記憶に刻まれているのが30代半ばを過ごした名古屋支店時代です。私は名古屋で改めて、自分は中小企業の社長をリスペクトしており、社長に直接会えるような中小企業のお客様としっかり付き合いたいのだということに気付かされました。中でも、業績の悪化した企業の担当を突然命じられたことがあったのですが、最終的に私が3か月間コンサルタントとして対応する旨の契約を銀行とA社の間で締結し、社長の息子と一緒に課題解決に向けて奮闘したことが最も印象的な仕事です。この社長の息子から転勤の時にもらった手紙には「まさに同志みたいだったね」と書かれていました。これは一生忘れられない経験です。

このような思い出を抱えながら、こうして現在故郷の伊那で仕事をさせていただいています。本当にありがたいと感じています。学生時代ボート部の仲間から、自分では自覚はなかったのですが、「お前は異様に郷土愛が強いな」と言われたことを思い出しています。どんな形か分かりませんが、故郷のお役に立つような仕事をしたい、伊那を日本一の地域にしたいと強く思っている次第です。